

いいとものわ

市内事業所の
個性豊かな社長さんや
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介します。
いつかあなたにも繋がるかも？

いいともボタン：No.30 登場の長谷川貴志さん ➡ 永山光夫さん



左／永山光夫さん(43歳) 右／横尾 友さん(31歳)

いいとも No.31

「櫛K-wall」社長 永山光夫さんの「とものわ」は「cafe sugar」店長 横尾 友さん。お二人とも県外から加茂に移り住み、同じ穀町商店街に店を持ちました。永山さんは静岡県出身で、13年前、結婚を機に加茂で暮らすようになり今年5月に『Koite-こいて-』をオープン。東京都出身の横尾さんは、一昨年ご夫婦で移住しカフェを開業されました。

お互いに顔は知っていたけれど、ちゃんと会話をしたのは今年7月、イベントの打ち合わせの時が初めてでした。商店街のイベントに積極的に参加するのは、自分の店をPRするためだけでなく商店街全体を活性化させたいという強い思いがあるから…。地方に移り住んだ仲間同士、親近感を持ち、お互いの考え方や発想に共感したそうです。加茂を大切に思い、盛り上げてくれる二人のパワーで、加茂は『日本一のまち』になるかも!?

私は幼少の頃、若宮町の根古屋地区と新町の商店街にて育ち、ルーテル幼稚園から加茂南小学校、若宮中学校へ徒歩にて通学しておりました。私たちの年代は子どもも多く、当時は毎朝、我が家から見て右は小学生、左は中学生。また、上条 八幡地区の工場で働く人が加茂駅方面から徒歩で通勤していた人も多く、夕方

になると人の流れはその逆になり、田舎町ながらそれなりに賑やかだったと記憶しています。駄菓子屋さんや玩具屋さんがたくさんあり、新町には河松屋、新発田文庫。五番町に入るとゲンゲドー(漢字は思い浮かびません)、南小学校のグラウンド脇に帆船商店がありました。勿論、市内の他の町内にも似たようなお店があり、くしや

や風長など、学区が違ってもころへ行くこと遠征をしている気分でした。各々、お店のおじさん、おばさんの個性が強くて面白かったですね。このお店の名前を見て懐かしく思われる方が大勢いらっしやることと思います。しかしながら、ここに挙げたお店は、残念ながら今は在りません。

駄菓子やジュース、コーラ、ラムネ等を飲んだり、キャラクターのカードやおもちを集めたり、プラモデルを買って作ったり、くじ引きやテレビゲームを楽しんだり。青海神社や長瀬神社のお祭りになると「天狗天狗」と声を出してのぼりを持って歩く子どもたちを集めに回って歩いていた「お祭りおじさん」がいて、友達と喜んで参加していました。小学校の高学年になるとボイスカウトに入り、市内外を自転車で駆け巡りあちこちの山や川、水源地でのキャンプは楽しい思い出です。

生まれ育った『小京都・加茂』、情緒あふれるまちで商売をさせていたでことに喜びを感じ、誇りをもって、より良いものとサービスを提供することで地元の皆様のお役に立てるよう、これからも努めています。



(有)小池時計店
社長 小池 俊木

